



森林報告第五號 草稿

服部文庫  
イ 17  
2173  
1



森林報告第五號 草稿

內務省

服部文庫

117

1892

1

夫培土者特ニ肥料ヲ使フルコトヲ以テ非ス暑カラ防キ乾キヲ避ケテ亦培土ノノリ之ヲ避ケル  
フルハ人知ル者ナラシメテ養フ所ノ之ニ乳之哺シ之衣之帽シ寒ケレバ室内ニ入ルニ温キ所ノ外ニ出スルコトナラズ

一本局森林報告第三號ニ順叙スル所ノ造樹法ハ前号既ニ

之ヲ擴説セリ次ヲ培養法トス故ニ本号ニ培養ノ至要タル所以ヲ擴

説シテ以テ注意ニ急タラサラシメンコトヲ欲ス培養ニ必

ス擁護ト相待テ行ハルモノナリ而シテ其擁護ノ入眼

目ハ前號ニ掲出スル十一條大抵ニ其要旨ヲ尽ス故ニ本

號ハ專ラ培養ヲ論シテ保護ノ一二ヲ帶説ス

一凡ソ天壤ノ間ニ生スル者細大頭微ヲ問ハス苟モ氣體形質ア

ルモノハ養ヲ以テ其性ヲ遂ケサルハ無シ故ニ養ヲ得ル

ハ小ナル者ハ小生シ大ナル者ハ大生ス其資ヲ以テ生

スル所ノ者皆其性ヲ遂成セサルハナシ若シ其養ヲ失

フニ至テハ痿弱病瘁シテ大小ノ性ヲ遂クルヲ能ハス豈

惟性分ヲ遂クルヲ能ハサルノミナランヤ亦杼然トシテ

密禁ヲ節禁疎禁ヲ補禁

其ノ量ヲ量シテ養フルコトヲ以テ其性ヲ遂クルヲ能ハス

稿死スルニ至ランノ三是レ動物ハ姑ラク之ヲ舎キ植物  
ニ在テ最モ培養ヲ謹ミスルハアルヘカラサル所以ナリ  
一夫造化ノ萬物ヲ生スル一草一木ノ至微至小ト雖長養ノ  
方ヲ与ヘサルナシ故ニ其至微至小ナル者モ自ラ生スヘ  
キノ地ニ生シ生スヘカラサルノ地ニ生セス其生スヘキ  
ノ地ニ生スルヲ以テ天地自然ノ養ヲ得テ能ク生長繁殖  
ヲ致ス生スヘカラサルノ地ニ生セサルヲ以テ寒暖燥湿  
ノ不適アリテ其生ヲ害スルナシ

一然リト雖亦説アリ其生スヘキノ地ニ生シ天然ノ養ヲ得  
ルヲ恃テ怒馬トシテ心ヲ用ヒサルハ時アリテ大旱  
雨ニ因テ其生ヲ遂サル者アリ其生スヘカラサルノ地ニ  
生セサルニ安シテ之ヲ放棄スルハ材用繁殖ノ道可ニ  
由テ致スヲ得ン亦終ニ空乏ノ患ヲ貽サンノミ故ニ人

其合者皆ノ廣カ  
故今分テ 三原トシ  
テ之ヲ説下スヘシテ原  
ノ自カヲ一肥料ト  
ナシテ保後トナシ三  
ヲ洗淨トナスル  
下方ノ土ヲ詳説  
トシテ肥料トナシ  
肥種ノ種類トナシ  
洋風モ考テ所ノ  
者ニ種々トナシ  
者トシテ其  
枯葉ノ糞及植  
物ノ糞ヲ用ル者  
馬糞金糞死糞  
由テ種々トナシ  
之ヲテ是者トナシ  
其糞造ノ子糞ト  
ナシ

アリテ之ヲ拮据シ之ヲ保護シ之ニ申サヌルニ誠実勉強  
ヲ以テスルハ寒土ニモ温ヲ与フヘク湿土ニモ燥ヲ加  
フヘク埴土モ壤ナラシムヘク硬土モ鬆ナラシムヘク生  
スヘカラサルノ地ナキニ至ラシムヘシ是レ之ヲ培養  
謂フ

一其レ是ノ如クナルハ故ニ温ヲ好ム者ヲ取テ之ヲ寒地ニ  
種藝スル中ハ密室ヲ作テ秋冬ノ風霜ヲ避ケ窓ヲ南ニシ  
テ太陽ノ温熱ヲ取ル如此スルノ數年漸ク其地質ニ慣ル  
、ヲ待テ後漸ク其保護ヲ弛フルハ亦以テ其生成ヲ遂  
ケシムヘシ寒ヲ好ム者ヲ取テ之ヲ暖地ニ種藝スルノ法  
之ニ反ス是レ人カヲ以テ生スヘカラサルノ地ニ就テ生  
スヘカラサルノ物ヲ生セシムルノ法ナリ

ナリ然レ氏亦以テ大ニ及ホスヘシ森  
林ヲ仕立ルノ法自ラ資ル所アラシ  
トナシ

其合者皆ノ廣カ  
故今分テ 三原トシ  
テ之ヲ説下スヘシテ原  
ノ自カヲ一肥料ト  
ナシテ保後トナシ三  
ヲ洗淨トナスル  
下方ノ土ヲ詳説  
トシテ肥料トナシ  
肥種ノ種類トナシ  
洋風モ考テ所ノ  
者ニ種々トナシ  
者トシテ其  
枯葉ノ糞及植  
物ノ糞ヲ用ル者  
馬糞金糞死糞  
由テ種々トナシ  
之ヲテ是者トナシ  
其糞造ノ子糞ト  
ナシ

其合者皆ノ廣カ  
故今分テ 三原トシ  
テ之ヲ説下スヘシテ原  
ノ自カヲ一肥料ト  
ナシテ保後トナシ三  
ヲ洗淨トナスル  
下方ノ土ヲ詳説  
トシテ肥料トナシ  
肥種ノ種類トナシ  
洋風モ考テ所ノ  
者ニ種々トナシ  
者トシテ其  
枯葉ノ糞及植  
物ノ糞ヲ用ル者  
馬糞金糞死糞  
由テ種々トナシ  
之ヲテ是者トナシ  
其糞造ノ子糞ト  
ナシ

右ノ下

任液

一任液ト云フハ人カ  
ヲ以テ樹木ヲ助ケ  
及之ヲ以テ樹木  
ト云フ云々  
仲摩フル肥料  
飲命ノ任液  
衣服家居  
我ル肥料  
故ニ任液ノ事ヲ陳  
ス

一培養ノ植物ニ急ナル上ニ云フ所ノ如シ最モ講究シテ決  
シテ之ヲ懈ルヘカラサルモノトス然リ而シテ穀草ノ類  
ハ本局ノ管スル所ニアラサレハ惟樹木上ニ就テ其利害

一此ノ養分ノ物性ヲ生成スル所以ヲ大別シテ二トス一ハ  
天地自然ノ養ニハ即チ人カノ培養天地自然ノ養トハ何  
ソヤ太陽地質風雷雨雪等アリ以テ温熱潤湿ヲ配賦シ室

素酸素ヲ作用ス又其物ニ就テ各種ノ作用力ヲ具ヘ山根  
質ヲ吸取シ葉ハ室素酸以テ其生成ヲ遂ケシム是レ天然

養分ノ最大ナル者ナリ是ヲ以テ陽光照射シテ温熱ヲ  
一水湿流融シテ滋潤ヲ与フ風ハ鼓動シテ滞氣ヲ疏通シ

雨ハ礦類ヲ溶化スルノ功ノミナラス其滲透スル深クシ  
テ以テ水湿ノ不足ヲ補フ雷雨ノ硝氣ヲ発作スル雪ノ諸

一任液ト云フハ  
揚子江ノ水ヲ  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル

一任液ト云フハ  
揚子江ノ水ヲ  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル

一任液ト云フハ  
揚子江ノ水ヲ  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル

一任液ト云フハ  
揚子江ノ水ヲ  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル

一任液ト云フハ  
揚子江ノ水ヲ  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル

一任液ト云フハ  
揚子江ノ水ヲ  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル

一任液ト云フハ  
揚子江ノ水ヲ  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル

一任液ト云フハ  
揚子江ノ水ヲ  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル

一任液ト云フハ  
揚子江ノ水ヲ  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル

一任液ト云フハ  
揚子江ノ水ヲ  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル  
テ以テ樹木  
ノ任液ヲ要スル

洗心

一培養ノ植物ニ急ナル上ニ云フ所ノ如シ最モ講究シテ決  
シテ之ヲ懈ルヘカラサルモノトス然リ而シテ穀草ノ類  
ハ本局ノ管スル所ニアラサレハ惟樹木上ニ就テ其利害

洗心

右のし  
口下りの

任波

一任波上何人カ  
ラテ樹木ヲ助ケ  
及之ヲ傷損セ  
ルルヲ云之ヲ  
任波トシ肥材  
飲命ノ任波  
衣服家底也  
我レ肥料事ハ  
故モ希ニ至ラ  
ニ任波ノ事ヲ  
一任波事クルマ  
柄キ苗ヲ栽ル  
ヲ始メ蓋樹木  
ノ任波ヲ要ス  
ク其ノ任波太  
ク其ノ任波太  
ク其ノ任波太

一培養ノ植物ニ急ナル上ニ云フ所ノ如シ最モ講究シテ決  
シテ之ヲ憚ルヘカラサルモノトス然リ而シテ穀草ノ類  
ハ本局ノ管スル所ニアラサレハ惟樹木上ニ就テ其利害

一此ノ養分ノ物性ヲ生成スル所以ヲ大別シテ二トス一ハ  
天地自然ノ養ニハ即チ人カノ培養天地自然ノ養トハ何  
ソヤ太陽地質風雷雨等アリ以テ温熱潤湿ヲ配賦シ室

素酸素ヲ作用ス又其物ニ就テ各種ノ作用カヲ具ヘ山根  
質ヲ吸取シ葉ハ室素酸以テ其生成ヲ遂ケシム是レ天然

養分ノ最大ナル者ナリ是ヲ以テ陽光照射シテ温熱ヲ  
一水湿流融シテ滋潤ヲ与アラ風ハ鼓動シテ滞氣ヲ疏通シ

而ハ礦類ヲ溶化スルノ功ノミナラス其滲透スル深クシ  
テ以テ水湿ノ不足ヲ補フ雷雨ノ硝氣ヲ發作スル雪ノ諸

一任波事クルマ  
柄キ苗ヲ栽ル  
ヲ始メ蓋樹木  
ノ任波ヲ要ス  
ク其ノ任波太  
ク其ノ任波太  
ク其ノ任波太

一任波事クルマ  
柄キ苗ヲ栽ル  
ヲ始メ蓋樹木  
ノ任波ヲ要ス  
ク其ノ任波太  
ク其ノ任波太  
ク其ノ任波太

一任波事クルマ  
柄キ苗ヲ栽ル  
ヲ始メ蓋樹木  
ノ任波ヲ要ス  
ク其ノ任波太  
ク其ノ任波太  
ク其ノ任波太

一又己レノ廢棄物ヲ以テ自ラ養フ者アリ落葉是ナリ深山  
遠谷ニ在テハ鬱ミタル森林落葉堆ヲナスモ人之ヲ掃ハ  
ス随テ落テ随テ腐敗シテ其堆キテ遂ニ一種ノ壤土ヲ為  
スニ至ル其本根ヲ肥養スルヤ尋常糞草ニ比スレハ一等  
ヲ加フモノトス故ニ前節推護法ニ於テモ既ニ己ニ之ヲ  
明戒セリ凡此類皆是レ天地自然ノ養分アリテ物性ヲ生

一任波事クルマ  
柄キ苗ヲ栽ル  
ヲ始メ蓋樹木  
ノ任波ヲ要ス  
ク其ノ任波太  
ク其ノ任波太  
ク其ノ任波太

成スル所以ノ大畧ナリ

一是ノ如クナルノ故ヲ以テ深山邃谷ニ生長スル樹木ハ谷

ニ其性分ニ随テ生スヘキノ地ニ生シ生スヘカラサルノ

地ニ生セス其生スヘキ適地ニ生シテ天然ノ養ヲ得ルカ

故ニ人力ノ培養ヲ俟タス能ク喬大ヲ致シ蒼翠天ヲ撐フ

ニ至リ遂ニ大小許多ノ山林ヲ成ス試ミニ看ヨ全國有名

ノ山林巨木良材ノ鬱々森々タル千百年ノ前ニ在テ誰カ

之ヲ種植セシヤ誰カ之ヲ培養セシヤ是皆天然ノ養分其生成ヲ遂ケシメタル者ニシテ人為ヲ待テ之ヲ成

立セシニ非サルヲ昭シテ明カナリ

一或ハ云フ本局ノ管スル所主トシテ山林ニ在リ其功用ヲ

論スルモ專ラ有用木材ニアリ若シ今説ク所ノ如ク山林

ノ樹木ハ天然ニ生シ天然ニ長シ天然ノ養ヲ得テ足ルト

云ハ、則人為タル培養方ノ如キハ講究セサルモ亦害ナ

カラント是惟其一ヲ知テ他ニ推及シ能ハサルモノナリ

彼ノ深山邃谷ニ生長スル者ハ固ヨリ既ニ上ニ云フ如ク

如シ然レモ全國ノ森林國家ノ用ヲ為ス者豈特深山邃谷

ニ生スル喬木巨材ヲ仰クノミナランヤ山岡峯峦丘陵原

隙凡ソ森林アル所ノ處人民厚生ノ用ニ供セサルハナシ

而シテ日本全國ノ地形ヲ量ルニ山林ノ區域十ノ七八ニ

居ル其七八ノ中ニ就テ假リニ峻嶽邃谷ナル者半ニ居ル

ト看做ス其ハ則森林ノ山岡峰峦丘陵原隙ニ在ル者殆ン

ト全國三分ノ一ニ居ル丘陵原隙ノ森林ノ人カヲ仰カサ

ルヘカラサルハ固ヨリ論ヲ俟タス山岡峰峦ト雖亦能ク

人カヲ以テ種藝シ培養シテ以テ牛山ノ美ヲ為スヘキモ

ノ多シ豈天然ノ養ニ付託シテ恬トシテ省ミサルヲ得

ンヤ況ヤ深山邃谷ニアル者ト雖亦人力保護ノ疎密ニ由

テ大ニ榮瘁美惡ノ差ヲ現出スルヲヤ培養ノ講究セサル  
ヘカラサル所以ナリ

一現今全國山林荒蕪スルヤ今日ニ在テハ最宜ク現存ノ山  
林ヲ保護シテ將來着手スル山林ノ繁殖ヲ待サルヘカラ  
サルノ事ハ既ニ前辨ニ云フ所ノ如シ良材巨木ノ世用ヲ  
為ス率ム子百年以上ノ者ニアラサレハ棟梁ノ用ヲナス  
ヲ能ハス而シテ全國日常關クヘカラサル營繕ニ於テ需  
用スル所ノ者其幾千萬ナルヲ知ラス朝ニ一林ヲ伐尽シ  
夕ニ一林ヲ伐尽ス假令隨テ伐リ隨テ植ルモ百年ノ久ミ  
キヲ短ルニアラサレハ復々用ヲ為スヲ能ハス況ヤ一々  
ヒ伐テ植總ヲ務メサル中ハ全國ノ巨木良材方ニ將ニ充  
尽セントス是レ國家ノ大患ニシテ最モ之ヲ患スンハア  
ルヘカラス

一夫一寸ノ苗参天ノ高ニ至リ兩葉ノ微蔽牛ノ大ヲ為ス故  
ニ人カト雖亦能ク以テ巨木良材ヲ造作シ得ヘキト決シ  
テ疑ヲ容ルヘカラス然レモ種藝法ニ適シ培養宜ヲ得ル  
ニアラサレハ亦之ヲ為スヲ能ハス是亦疑ヲ容レサル所  
ナリ

一今甲乙相並テ茶園ヲ有スル者アリ地味齊シク樹性齊シ  
ク芽ヲ摘ムノ時候齊シク焙製ノ法モ亦有シ而シテ甲ハ  
上等ノ茶ヲ製シ得ルヲ常ニ多ク乙ノ得ル所ハ常ニ劣等  
ノモノナリ是レ甲ハ培養宜キヲ得乙ハ懶惰ニシテ培養  
ヲ務メサルカ故ナリ又南太平洋ノ諸島ニ産スル蕃薯ノ  
如キハ自然ニ能ク萌發成熟スト雖醜塊堅硬ニシテ其味  
蠟ヲ嚼ムカ如シト云ヘリ肥養ノ植物ニ緊要ナル此ノ如  
シ



一森林培養ノ法ハ他ノ田圃庭園ニ施ス者ト異ナリ保護法モ亦培養ノ

一タリ故ニ其區域ヲ正シ盜伐ヲ防キ野火延焼ヲ防クノ類其伐採ヲ時ニシ老木ノ稚木ヲ

類亦培養ノ一二居坊々病木ノ良木ヲ害スルヲ伐ル等種ニノ法アリ詳クニ後ヲ代木法ニ説クヘシ植木ノ疎密ヲ適度ナラシムルノ

一森林ヲ立ントスルニハ先ツ土地ノ形勢山岳平地窪凹河海濱ノ類性質加

基礎アル者砂地砂礫地或ハ岩石等ノ種類又植壇墳壤ノ異ヲ察シ山嶽ノ起伏方位山脈陰陽

ヲ相シ寒煖氣候ノ齊シカラハ寒煖随テ異ナリ海面同度ノ氣候アリ

ス燥湿特ニ各地高低ノ異アルノミナラス一ニ就テ自ラ乾湿ノ異ナルアリノ度ヲ審カニシ空氣ノ流滯

陽光ノ向背ヲ觀テ何木ノ此ニ適スヘキヤヲ否ヤヲ吟味シ時候

ヲ以テ先ツ其地ヲ耕肥シテ地味ヲ適應ノ肥養ヲ施シ亦時候ヲ以テ下種

スル片ハ百活セサル者ナシ

一其耕肥スル時ニ方テ土地ノ厚薄ヲ熟察シ其薄キハ深ク耕

シテ下層ニ達シテ下層ニ達シ墟土落葉ヲ埋ムルヲ佳トス木根上層ノ厚サ四尺ヲ常トス

内務省

ニ害アリ一タヒ此害ヲ受ル片ハ終ニ生成ヲ遂ルヲ能ハ  
サルニ至ル故ニ能ク之ヲ培養シ能ク之ヲ保護シ寒ヲ畏  
ル、者ハ之カ為ニ風霜ヲ防禦シ暑ヲ畏ル、者ハ之カ為  
ニ炎日ヲ遮蔽ス其苗ノ漸長スルニ及テハ柱ヲ植テ、之  
ヲ扶持シ其レヲシテ枉曲ナラシメサランヲ要シ兼テ  
暴風ノ折傷ヲ避ケ以テ其生成ヲ遂ケシム此ノ如クニシ  
テ始メテ善ク培養スル者ト謂フヘシ

一農學家講スル所ノ糞宜三十六種分テ三類トナス其目左

ノ如シ

一動物ヨリ資ル所ノ者十二種

人糞 灰糞 臘土 合肥 三和土 本肥 下肥

人溺 淡水糞 小便糞 小便尿

馬牛糞 家猪屎

内務省

此如テ  
肥料ト  
保はる  
加フベシ

此ニ適スヘキヤ否ヤヲ吟味シ時候ヲ以テ先ツ其地ヲ耕  
耙シ植ント欲スル木ニ適應スル肥養ヲ施シ又時候ヲ以  
テ下種スル片ハ百活セサル者ナシ是ヲ最上ノ類此法ヲ用  
妙トス  
一苗生スルノ後ニ至テハ最モ肥糞ノ多寡灌溉ノ疏數等ニ  
注意シ細心ニ之ヲ保護スヘシ稚苗ヲ保護スルノ法亦猶  
小兒ヲ保護スルカ如シ小兒ハ無智ナル者ナリ人ノ乳哺  
飲食スルヲ待テ生長ス口未タ飢飽ヲ言フヲ能ハス故ニ  
之ニ飲食ヲ与フルト多キ中ハ疾病立トエ口ニ至ル飲食  
ヲ与ルト足ラサル中ハ羸弱ニシテ生長ヲ害ス之ヲ節シ  
テ其度ヲ得セシムルハ保母ノ注意ニ在リ稚苗モ亦肥糞  
ヲ待テ生長ス而シテ其度ヲ得サル中ハ矮曲ニシテ生長

ニ害アリ一タヒ此害ヲ受ル中ハ終ニ生成ヲ遂ルヲ能ハ  
サルニ至ル故ニ能ク之ヲ培養シ能ク之ヲ保護シ寒ヲ畏  
ル、者ハ之カ為ニ風霜ヲ防禦シ暑ヲ畏ル、者ハ之カ為  
ニ炎日ヲ遮蔽ス其苗ノ漸長スルニ及テハ柱ヲ植テ、之  
ヲ扶持シ其レヲシテ枉曲ナラシメサランヲ要シ兼テ  
暴風ノ折傷ヲ避ケ以テ其生成ヲ遂ケシム此ノ如クニシ  
テ始メテ善ク培養スル者ト謂フヘシ

一農學家講スル所ノ糞直三十六種分テ三類トナス其目左

ノ如シ

一動物ヨリ資ル所ノ者十二種

人糞 灰糞 臘土 合肥 三和土 本肥 下肥

人溺 小便糞 小便尿

馬牛糞 家猪尿

内務省

皇國古來馬糞ヲ貴テ牛糞ヲ賤シム政洲ノ反説ハ之  
 二反ス其説ニ曰反爵ノ類ハ其食物ヲ屢反爵ス  
 一故ニ尋常草食ノ堆糞ニ製スル其世ノ所ノ糞善  
 一消化セシムヲ以テ堆糞ニ製スル其世ノ所ノ糞善  
 一園圃ニ施スルハ又曰ク馬ト反爵ノ糞ト異ナ  
 一馬糞ニ其草蒼ニ繁茂ス下  
 一政洲ニテハ羊糞ヲモ用フ  
 一硝精 礬砂 透明礬砂 擬礬砂  
 一馬牛溺 凝固塩 礬砂 透明礬砂 擬礬砂  
 一鳥糞 水鳥 鷓鴣 雞

鳥糞善ト雖多ク得難キニ苦シム政洲ニテハ海  
 鳥糞ヲ特用ス蓋シ海鳥糞ハ全島堆ヲ十ス者アリ  
 八十

蠶屎 蚕蛹 蚕蛾

獸肉 獸肉水 海螺肥

魚貝肉 魚肉水

乾魚 乾魚ニ油粕  
 魚油 海鮠油 海鯧長鯧油 熊家猪野猪ノ脂

活物羽毛 人毛 獸毛  
 骨角殼 骨殼灰

一植物造釀ヨリ資ル所ノ者十二種

諸穀 大豆肥 豆肥 納豆肥

諸苗

廐肥

芝肥 腐肥

青草 腐肥  
 一政洲人亦無ク狼莠ヲ用  
 一ニテ必用ノ物トナス

草木灰

米麥糠

諸穀稈 油糟水 芥子油糟殺虫

内務省

酒糟 酒糟肥

醬油糟

海河ノ藻

一土石類ヨリ資ル所ノ者十二種改洲ニテ礦物資ト云フ者即是ナリ皆多ク培養

ノ質ヲ具フト云フ

屋上ノ煤

炭焰硝 精焰硝

屋下ノ芥

塵埃

灰日泥

焰硝海塩

硫礬

紅砒石

砒礦灰

石灰 膏凡灰 石炭灰

溝河泥 厨下水 魚洗水 米泔水 浴湯水

河砂

客土

右ノ三十六種ヲ以テ之ヲ調和シ之ヲ釀熟シ或ハ長流水  
雨水ヲ加ヘテ其性ノ猛烈ナル者ヲ和ラケ或ハ精煉ノ術  
ヲ尽シテ其質ニ含有スル所ノ物ヲ取ル等ニ至テハ其用  
タル凡ソ八十而ル後土地ノ燥湿ヲ相シ氣候ノ寒暖ヲ察  
シテ之ニ糞培スル片ハ凡百ノ植物其生成ヲ遂ケサル

十ニ詳ニ培養秘録等ノ農書

一肥糞ノ性能植物ヲ養成スル飲食猶善劑ノ人ノ疾病ヲ療スル

如シ葉ニ寒温冷熱種ノ性アリ肥糞ニ二ホ之ハ故ニ

台樹木ノ寒ヲ畏ル者ニハ熱物ヲ与ヘ熱ヲ畏ル者ニハ

樹木ニ強弱アルハ稀スハ壯儼アルカカ覺得種ノ性ヲ量リテ肥料ヲ与ルハハカスル故ニ

樹木ノ虫ヲ掃滅スルニハハカスル故ニ

蓋樹木

冷物ヲ施ス惟植物ニ隨テ冷熱物ヲ与フルノミヲ又土  
地ニ於テモ亦此法ヲ用フ燥地ニハ滋潤ノ物ヲ以テシ湿  
地ニハ温熱ノ物ヲ以テシ粘埴ノ地ハ虚膨ノ壙土ヲ以テ  
シ輕鬆ノ地ハ收斂質ノ物ヲ以テ其質ノ不足ヲ補フ中ハ  
土地モ亦培養法ヲ以テ其質ヲ變化セシムヘシ其功亦偉  
ナラスヤ

一<sup>九</sup>人糞ハ無上ノ肥養ナルヲ五尺ノ重ト雖能ク之ヲ知ル然  
レ<sup>九</sup>熱糞ヲ用フル中ハ効ナクシテ或ハ之ヲ害スルヲア  
リ<sup>九</sup>或<sup>九</sup>說寒中ニハ大害之ヲ貯久シテ宿糞ト云フ又熱糞トナス中  
ハ其効能他糞ノ能ク及フ所ニアラス宿糞ト雖亦之ヲ單  
用スル中ハ猶猛烈ナリトス故ニ調和シテ用フルヲ可ト  
ス凡ソ肥糞亦皆此ノ如シ<sup>九</sup>貴<sup>九</sup>洲ニテ堆糞ヲ  
一<sup>十</sup>木ニ人糞ヲ忌ム者アリ松ノ類是ナリ他樹ノ如キモ之ヲ

用ヒテ度ニ過ル中ハ必ス蟲ヲ生ス<sup>九</sup>梅ノ性烈ナレハナリ  
一<sup>十</sup>大抵果木ニ培養スルハ獸肉水ヲ可ナリトス其効能量ル  
ヘカラサル者アリ<sup>九</sup>政洲培養法亦

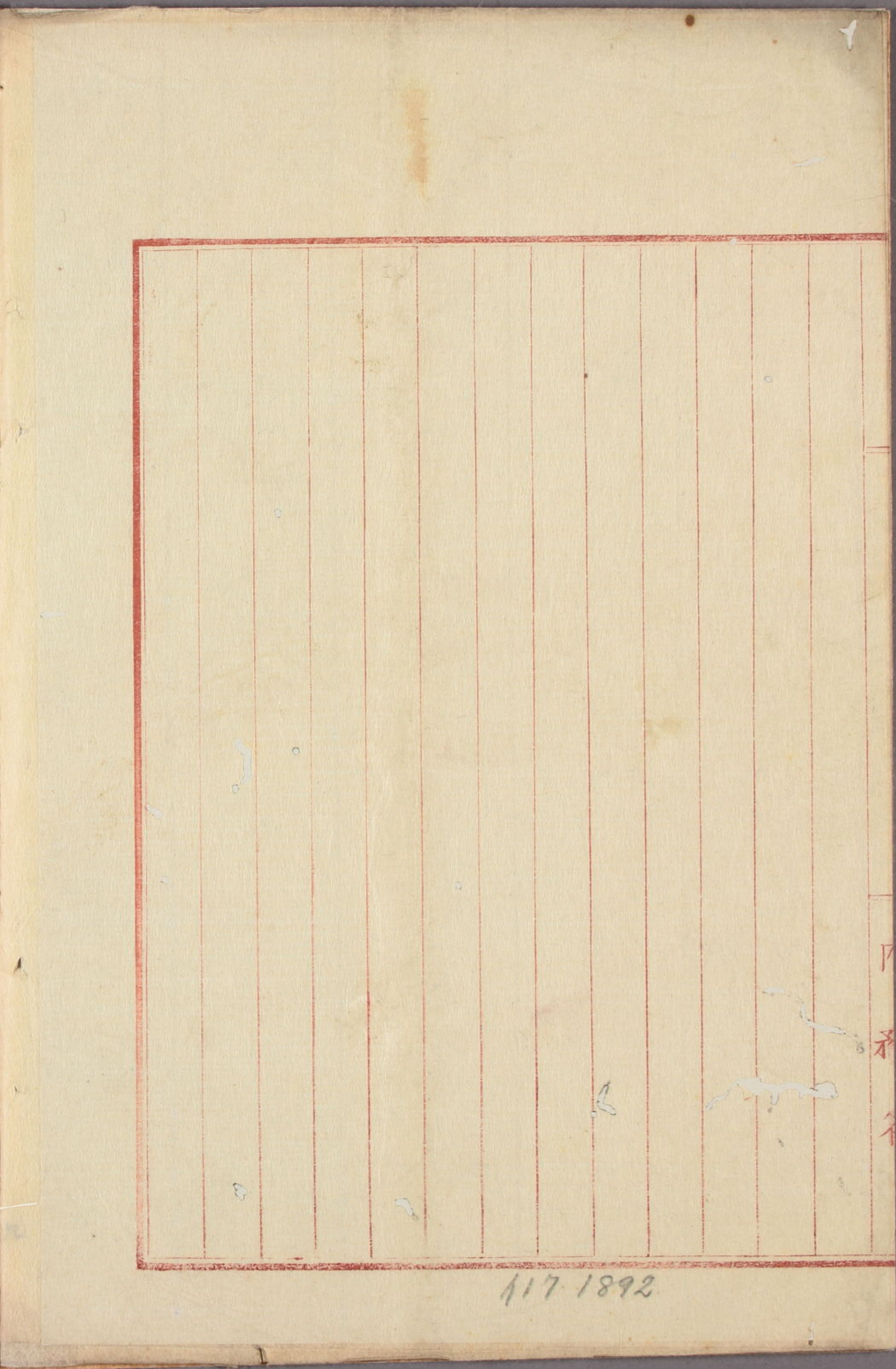
一<sup>十一</sup>糞草ノ法農學家歴世苦辛シテ講スル所大畧上ニ云フ所  
ノ如シ然レ<sup>九</sup>氏之ヲ用フルノ法ニ至テハ筆端口吻ヲ以テ  
説明スヘカラス必ス細心ニ其性能ヲ詳明ニシ其實効ヲ  
歴試シ各自之ヲ心ニ會得シ土地ノ性質ト氣候ノ寒暄ト  
ヲ察シテ而後之ヲ施シ尚且歲月ノ久シキヲ積テ歴試ノ  
熟スルニアラサレハ未タ其妙ヲ尽スニ至ラス況ヤ各地  
方ニ於テ亦數百年ニ歴試シタル所ノ習慣ナルモノアリ  
豈輕易ニ談スヘケンヤ然リト雖今報告スル所專ラ林政  
ニ急ナリ各其土地ニ於テ誠心ニ之ヲ求メハ森林ノ逐年  
繁茂スル亦期シテ待ツヘシ培養ノ講究セサルヘカ<sup>九</sup>ラサ

内務省

ル所以ナリ

均  
務  
首

九



117-1892

